

経営比較分析表

栃木県 さくら市

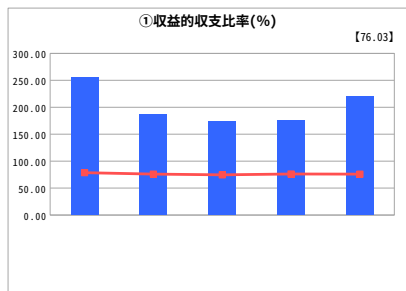
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	8.85	3,520

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,362	125.63	353.12
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
3,920	17.71	221.34

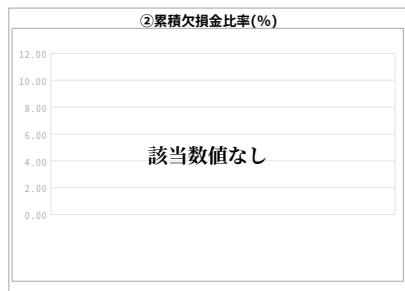
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成26年度全国平均

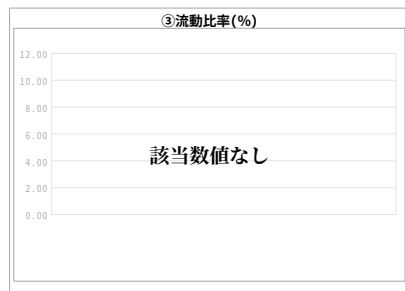
1. 経営の健全性・効率性



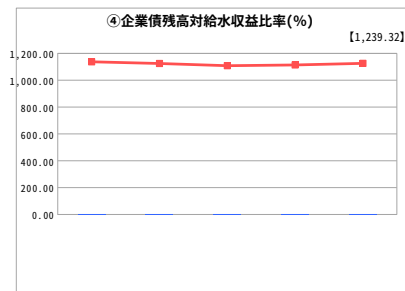
「単年度の収支」



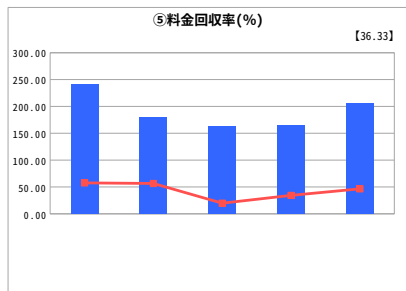
「累積欠損」



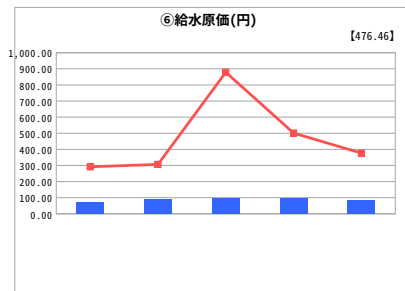
「支払能力」



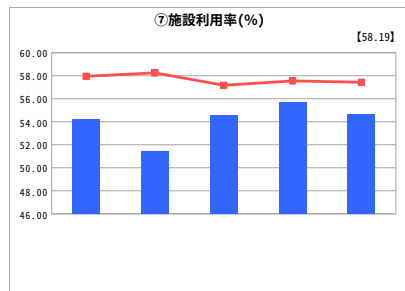
「債務残高」



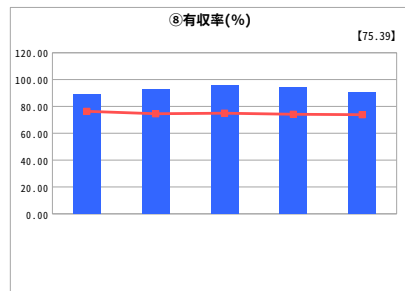
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

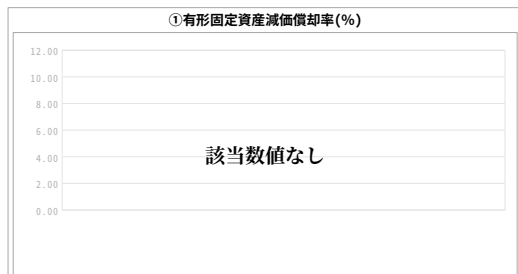


「施設の効率性」

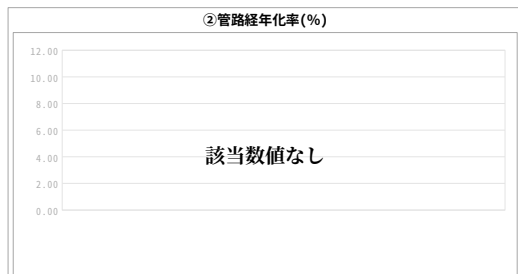


「供給した配水量の効率性」

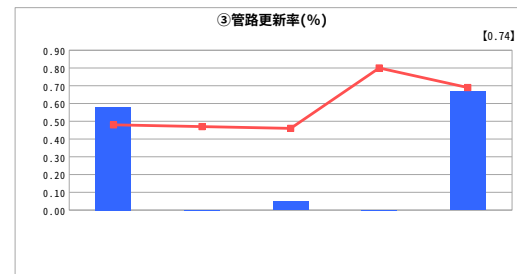
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

さくら市の簡易水道事業では、地方債の返済が終了しているため、⑥給水原価(=[総費用から地方債返済額を控除した額]円÷[料金徴収のもとになる水量]㎡)が抑えられています。また、一般会計からの繰入金も少額で、費用を給水収益だけで賄うことができています。

さらに、有収率(=収益につながる水量の割合を表すもの)は高水準を保てていて、配水した分は効率よく収益につながっています。

2. 老朽化の状況について

管路更新率について、数値としては全国平均よりも水準が低くなっていますが、それは、さくら市の簡易水道事業区域の水道管は、耐用年数を過ぎていない管路なので更新の必要性は少ないからです。しかし、将来的には更新が必要になってくるので、更新のための投資計画を立てていきたいと思っています。

全体総括

さくら市の簡易水道事業は、全国的に見ても、経営成績は良好です。また、平成27年4月から簡易水道は上水道と統合し「さくら市水道事業」となりました。これにより、施設利用率や管路更新率は多少の改善が見込まれます。統合後もこの業績を維持し、さらに発展できるように努力したいと思います。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。